

備前市事務事業評価シート

事業の概要		昭和46年		根拠法令・規程等		健康増進法・がん対策基本法		
事業開始年度				問	担当課(室)	保健課		
総合計画	大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	合	職・氏名	健康係長・春名美郎	
中項目	基本施策	02	健康でやさしく生きるまちなみづくり	先	電話	64-1820		
小項目	施策	02	成人保健(歯科保健を含む)	このシート作成に要した時間				3.0 時間
事務事業名		01		各種検診事業				

事業の目的		Plan	
対象(誰・何に対して)	40歳以上の備前市民(子宮頸がんは20歳以上女性、乳がんは30歳以上女性、マンモグラフィは40歳以上女性、前立腺がんは50歳以上男性、節目健診は30・35歳男女)		
目的(何のために)	生活習慣病予防、がんの早期発見と予防		
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	生活習慣病の早期発見と予防。がん検診受診率の向上を図ることで、がんの早期発見と早期治療を目指す。		

事業の実績		Do	
細事業名	事業の説明		優先度
肺がん検診事業	40歳以上を対象に、結核検診として撮影した胸部X線フィルムを肺がんの有無を確認するために二重読影をする。また40歳以上で喫煙指数800以上の人や希望者を対象に喀痰検査を実施。		
大腸がん検診事業	40歳以上を対象に、便潜血反応による検査を実施。検便回収は肺がん検診の会場で行う。		
胃がん検診事業	40歳以上を対象に、各地区公民館で検診車による集団バリウム造影検査を実施。		
乳がん検診事業	30歳以上女性を対象に、各地区公民館での集団検診と、市内指定医療機関による個別検診を実施。マンモグラフィ検診は市の乳がん(視触診)検診を受診した40歳以上希望者を対象に、検診車による集団検診を実施。		
子宮頸がん事業	子宮頸がん検診は20歳以上の女性を対象に、各地区公民館で検診車による集団検診と、指定医療機関(備前、日生、吉永病院)による個別検診を実施。		
(がん検診推進事業)	平成21年度から「女性特有のがん検診推進事業」を実施。子宮頸がんは21・26・31・36・41歳、乳がん(視触診)・マンモグラフィ検診は41・46・51・56・61歳の女性を対象に無料検診を実施した。平成23年度から「働く世代への大腸がん検診推進事業」が加わり、「がん検診推進事業」と事業名を改め、41・46・51・56・61歳の人を対象に大腸がんの無料検診を実施した。対象者には、無料受診券(クーポン券)とがん検診手帳を、個別に案内した。実施体制は、乳がん検診事業、子宮頸がん事業と同じ。大腸がん検診は大腸がん検診事業に加え、「がん検診推進事業」の対象者に限り、指定医療機関による個別検診を実施した。		
節目健康診査事業	30・35歳を対象に、市内指定医療機関と瀬戸内市の長谷井内科と柴田医院で実施。		
前立腺がん検診事業	50歳以上男性を対象に、市内指定医療機関と瀬戸内市の長谷井内科と柴田医院で実施。		

事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
決算額	事業費	千円	23,697	22,884	24,549
	必要人員	人	1.73人	1.57人	1.80人
	事業費	千円	33,305	32,160	35,510
財源	国庫支出金	千円	1,087	1,413	1,864
	受益者負担	千円	3,880	3,350	3,658
	繰入金	千円			
	市債	千円			
その他( )	千円				
一般財源	千円	28,338	27,397	29,988	
受益者負担比率	%	11.6%	10.4%	10.3%	
結果指標名		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
結果指標	がん検診受診者数	説明	乳がん・子宮がん(セット検診を含む)の受診者数		
	結果指標量	人	3,975	3,181	3,599
	対前年比	%	-	80.0%	113.1%
	活動コスト	円	33,305,000	32,160,000	35,510,000
単位当たりコスト	円	8,379	10,110	9,867	

事業の成果					
成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
婦人科検診受診率 (子宮がん:30%、乳がん:30%)	目標値(A)	30	30	30	30
	実績値(B)	20.8	17.05	19.4	到達目標値
	達成率(B/A)	69.33%	56.83%	64.67%	30
成果指標設定の考え方・式や説明					
婦人科検診受診者数/婦人科検診対象者数				H22 (23.3%+18.2%) × 1/2=20.8%	
[対象者は、厚労省のがん検診事業の評価に関する委員会報告書の算定基準による対象者選定方法による]				H23 (18.8%+15.3%) × 1/2=17.05%	
(乳がん検診受診率+子宮がん検診受診率) × 1/2				H24 (22.1%+16.7%) × 1/2=19.4%	

事務事業の評価		Check	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	必要	A
効率性の評価	コスト	手	B
有効性の評価	市民参画度	目的達成度	C

進行年度(H25年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	今年度は、子宮頸がん、乳がん(視触診)を仕事をしている若い世代が受診しやすいよう、ナイター検診(17時~19時の受付)を実施する。また、出来るだけ同日でがん検診が受診できるよう肺がん、大腸がん、胃がんの3セット検診を計画した。大腸がん検診はさらに、指定医療機関でも受診できるよう受診体制の拡大をし図っている。また、検診受診のPR活動を愛育委員会と連携し行っていく。						

総合評価		Action	
健康増進方に基づき継続して各種がん検診を行っている。H24年度に子宮頸がんと乳がん(視触診)検診が同日に受診できる体制とし、さらに個別検診を1医療機関から3医療機関に拡大したことから、受診者増につながっている。H24年度は、愛育委員会と「検診ひろめ隊」を発足し、検診受診のPR活動を各地区商業施設や幼稚園等で行った。体制は整備されつつあると感じるが、今後は検診ひろめ隊とともにPR活動を積極的に行っていく必要がある。	総合評価	B	

平成26年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	検診の受診体制を拡大、整備している中、今年度の受診状況を検証し、次年度の体制に活かしていくようにする。また、PR活動については、どこにターゲットをおくかを吟味し積極的に普及啓発を行うようにし、受診率向上を目指す。						

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな